

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400294		
法人名	株式会社 建装		
事業所名	グループホームさらさの家		
所在地	島根県出雲市東福町190番地2		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成31年2月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念「こちよく ゆったりと あなたらしく」を念頭に、家庭的な生活の中で個々の役割を發揮できるよう支援に努めている。敷地内に農園があり、利用者様の協力を得て、野菜を栽培・収穫し、旬の季節野菜を使った手作りの食事を提供している。近隣の学校や福祉事業所との交流、地域ボランティアの訪問が多い。縁側喫茶や収穫祭の開催、地域イベントに出掛けるなど積極的に地域交流を行っている。利用者様の外出支援に努め喜んでもらっている。昼食会では、季節を感じるメニューやご希望メニューを一緒に作っている。職員配置を優遇し、メンタルヘルス対策、離職防止に努め、施設内外の研修で学びの時間を設ける事でチームとしての知識や技術の向上を目指した。防災マニュアルを整備し危機管理体制を強化している。概ね2ヵ月毎に広報紙を地域に配布、SNSを活用し地域に開けた施設を意識している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1982年創業の株式会社建装は、2009年に介護福祉事業をスタートさせ、1ユニットのグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所として「さらさの家」が出雲市東福町の住宅街に続く田園風景の中に建てられてから10年目を迎えている。南に愛宕山公園が臨めるホーム周辺には、学校、大手企業工場、商業施設、商店、温泉施設もあり、街の喧騒に近く、広々とした敷地に農園も整備して近隣住民に開放している。自分の個室を案内して下さった利用者さんは、部屋から見える景色を気に入っていて、久多美平野と呼んで地元のホームにいることに誇りを持って暮らしている。職員は利用者さんごとの特性に対して細やかな対応で接しており、和やかな雰囲気です。とんどさんやお宮の祭りなどの地域行事に参加したり、ホームの縁側カフェや農園での園芸にお誘いしたり、定期的な防災訓練にも協力を得るなど、地域住民との交流は盛んで、新鮮な野菜や魚などの食材での手作りの料理は利用者さん方の食欲も促してみなさんがお元気で過ごしておられる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所など、常に理念を目にする環境を作っている。会議では、全員で唱和し意識するように促した。また新人育成プログラムにも理念を意識できるような様式にしている。	「こちよく・ゆったりと・あなたらしく」というホームの理念は、利用者さんごとに違うケアに心がけながら、皆の和も大切にし、地域の人々とともにホームに閉じこもらない暮らしを大切にしていることなどで実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学の総合授業・中学生の職場体験、地域ボランティアを積極的に受入れた。収穫祭、縁側喫茶等のイベントを企画し地域の方と交流の場を設けている。また、地域の行事に参加している。	ホームは、広い窓から、景色が眺められるとともに、外からも地域の人々が気軽に声を掛けやすい開放的な建物であり、ボランティアや学生、近隣の人々と日常的に交流している。広報誌やSNSでのフェイスブックで、ホームの活動を発信もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を概ね2か月に一度発行。コミュニティセンターの協力を得て地域へ配布。地域資源の特集や脳トレを掲載した。地域商店街のイベントで、終活講座を行い、自身の意思を伝える事の重要性を伝えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用状況やサービス内容を報告し意見交換した。参加者に運営推進委推進会議に求める内容を伺い、頂いた意見から、研修報告を実践しに活かしている。また、多くの職員が参加できるよう調整している。	運営推進会議では、利用者さん、家族、職員も多く参加している。議題も参加者からいただくなど、地域の情報や意見がたくさん発表されており、日々の活動に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、書類提出は直接担当者を訪問し、手渡しする事を心掛けている。訪問した際、利用状況の報告をすると共に、事業所が抱えている問題点などを相談しアドバイスを頂いている。	出雲市の担当者とは、なるべく直に相談に行くなど顔の見える関係を築いており、制度や処遇面でも適切に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離床時に転倒の危険性がある利用者様は、家族の了解を得てセンサーを設置している。夜間のみ施錠の徹底。ミーティングで、身体拘束についてのミニ講座を行い、職員に理解を促した。また、外部講師を招き、アンガーマネジメント研修を行った。	利用者さんは、それぞれ自由に振る舞っておられ、表情も和やかで笑顔で話しかけてくださる。職員は優しい言葉や態度で接しており、拘束などは全く見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内、外の研修には積極的に参加を促している。また、参加職員が偏らないよう調整し、多くの職員が参加できるようにしている。研修報告は回覧し、情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とする対象者がいないため活用せず。人権・虐待の研修へは参加したが、職員全員が制度への理解には至らず、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、重要事項を説明した上で、不安点・疑問点を解消して頂く時間を設け、サービスへの理解、納得して頂いている。特に医療行為が必要になった場合や転倒等のリスクについては、十分に説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の訪問など第三者から利用者様の意見を聞く機会がある。利用者本人から意見を聞いたり、家族の面会時に意見を伺っている。運営推進会議に利用者様、ご家族に参加を促し意見を頂いた。	家族との協力関係は良好であり、面会も多く、職員はホームでの暮らしぶりを詳しく伝えている。家族も、利用者さんと外出したり、自宅に連れて帰ってふれあうことも多い。自ずと家族からの感想や意見は汲み取りやすく、依頼についてもいろいろと対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等、意見しやすい環境を意識している。必要時、個々の面談の機会を設け、意見や提案を必要に応じて運営に反映している。事業所内での解決が難しい場合、運営法人に伝え反映できるようにしている。	職員はチームワーク向上のための様々な研修の成果もあって、互いの意見交換やケアの向上のためのアイデアも活発にかわされており利用者さんの個性を尊重したケアにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格・経験に応じた給与の等級制度を設け、職員の意欲向上に繋げている。常勤・非常勤の給与水準を均一化。ミーティングでは業務改善に向けた話し合いを設けている。配置人数を増やし個の負担を軽減。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は掲示し、希望の研修に参加できるシステム。経験に応じた研修は提案し参加を促した。新人育成プログラムを取り入れ、個々の成長に合わせ対応した。外部、内部講師を含め施設内研修の機会を増やした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部講師を招いた施設内研修では、近隣の事業所にも声を掛け参加頂いた。積極的に実習生を受け入れ、他事業所へ実習に行く機会をも設けた。他事業所の地域開放日に、利用者様も含め交流に出掛けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が計画作成担当者が、可能な限り自宅を訪問し、以前の暮らしについて情報を収集。不安を軽減するため、馴染みの寝具、食器を持参して頂き、住み慣れた環境作りに努めた。また、意識して関わる時間を増やした。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者を中心に、サービス導入にあたり、事前に家族の要望を聞きケアプランに取り入れた。こまめに家族とやり取りして、その都度、様子を伝えたり、相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に管理者が計画作成担当者が、アセスメントを通じて、本人、家族がどのような支援を必要としているかを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、利用者様のできる事に着目し、洗濯仕事や台所仕事を共にし、農園の苗の定植、作物の収穫などしている。地域の習わしや行事など一緒に参加してもらい関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特変時は、家族に電話連絡し情報を共有した。毎月、写真入りの手紙や広報で報告。通院介助、衣替え、行事参加の依頼して、家族との関係も大切にしている。ご要望に応じ、ご家族と一緒に食事を摂った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加し、地域の方との交流を図っている。かかりつけ医への通院、往診、馴染みの理美容院を利用した。希望で仏壇を拝みに帰る機会を設けている。また、自宅へ送迎し、家で過ごす時間を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が、助け合えるよう、近くに座れるようにしている。また、孤立せぬよう、テーブルの配置を考えている。会話が困難であったり、難聴の利用者様には、職員が近くに座ったり、間に入ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族様も行事に招待したり、フルト演奏に来て下さる家族様もいる。長期の入院等で退去される場合等、本人・家族の希望があれば、経過について連絡を取り合い、再契約に向け相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や利用者様との日常会話、ケアの際の会話から思いや希望を把握するようにした。意思疎通が困難な方は、行動や表情を観察し、職員間で情報共有しながらアプローチを検討している。	職員は親切な態度で優しく接しながら、利用者さんからライフヒストリーや思い・希望を聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、家族や利用者様から聞き取り、必要があれば以前利用していたサービス事業所からも情報収集を行っている。また入所に先立ち自宅訪問なども行い、馴染みの暮らし方・生活環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は利用者状況表を使い、職員間の連携を図っている。有する力等の現状については個人記録に記入し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が認定調査・更新調査時にミニカンファレンスを設定し現状報告、意向の確認をしている。職員に介護計画の具体的なサービス内容について意見を求める場を設け介護計画を作成している。	利用者さん・家族・スタッフ全員で話し合い作成した介護計画は個性的なものであり、実践に即したものとなっており、家族も満足している。状況に変化に応じて柔軟に更新・変更もなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果については個人記録に残し、気づきや工夫は別シートに記入。それをもとにカンファレンスを実施、記録を個人ファイルに残し、介護計画の見直しや職員間の情報共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの美容院への送迎や必要時の病院への付き添い、情報提供した。個別に靴や下着等を一緒に買いに行く事もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理美容院を利用したり、買い物は地元スーパーを利用している。定期的に体操・読み聞かせボランティアの方を招き楽しまれた。近隣の町内行事に誘って頂いたり、秋の例大祭では、獅子舞を踊って頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族に協力をお願いしているが、病状・状況の報告が必要な場合、同行し情報提供している。ご家族の負担を考え、かかりつけ医の往診で対応してはいる。緊急時等は家族に代わり通院介助を行った。	健康面にも気をつけており、看護職員からのアドバイスや介護職員との連携も良好であり、定期受診や往診を受けるなど医療面への配慮をしている。緊急対応も速やかである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能型居宅介護と兼務で、非常勤の看護師職員と連携をとり、異変時に報告・相談をし、指示を仰いでいる。また、早めに医療機関へ連絡し、受診・往診・処方へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院当日に情報提供し、入院中も面会に行ったり、相談員とも連絡を取り合っている。退院が近くなるとカンファレンスに参加し、退院後の生活での注意点や心配点など意見交換をして、受入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点での看取りについて意向を確認し、重度化が予測される場合は事前に話し合いの場を設け、改めて看取りについて本人やご家族様の意向を確認し、ご希望に添えるよう、主治医と相談し方針を定め、納得のいく終末期を迎えられるよう努めた。	利用者さんは、近隣の方がほとんどであり、家族の協力も得やすいことから、本人・家族・関係者それぞれが納得するまで話し合いをしながら、終末期のケアを今後も取り組んでいく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間対応の職員を中心に概ね2年に一度は、普通救命講習を受講している。急変・事故発生時に備え、アクションカードを整備。運用に向け係が中心となり訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・侵入者対応マニュアルを整備。隔月で訓練を実施。極力、利用者様も参加、実際の風水害訓練では、指定避難所まで避難した。出雲市、久多美地区合同訓練に参加予定だったが、悪天候のため中止となる。	法人として、定期的な防災訓練には、消防署の指導も受けながら、近隣住民の協力を得て、利用者さん参加で行い、非常時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のミーティングの時間を活用し、声掛け、介助方法など再確認し情報を共有した。また支援される側の立場を体験する機会を設けるなど、職員の知識向上に繋げている。	利用者さんは個室で一人の時間を楽しむことができる。食事のときのエプロン使用について、職員自身がその立場になって体験してみて皆で話し合うなど利用者さんの尊厳について深く考察しながら日々のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物・茶菓子の種類を増やし、自己決定しやすいよう、目の前に置き選んで頂いている。午睡、レクリエーション、外出等できる限り思いに添えるよう心掛けている。意思の確認が難しい場合でも、表情や動作を参考に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	計画になくても、ご希望があれば、買い物へ行ったり、ご自宅に帰れるよう支援している。日中、この時間は、何をするとする決まりはなく、個々のペースを大切にしている。併設の小規模多機能型居宅介護へも自由に行き来できる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類を自分で選んでもらい、意思疎通が難しい方には、以前の好みを考慮して選んでいる。馴染みの理美容院を利用しパーマやカラーも楽しんで頂いた。行事や外出などに合わせ、衣装を選んだり、着替えを支援した。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は本人の希望メニューを提供。昼食会は、旬の食材や季節を意識し、クリスマス会・新年会などの行事メニューは、一緒に考え調理した。外食も楽しみの1つになっている。お茶注ぎ、食材切り、盛り付け、箸配りなど日課も増えた。	農園で収穫された旬の野菜や新鮮な食材を使った料理は、掃出し窓から景色が眺められる厨房で、手作りされている。熱いお汁や温かいごはんやお菜を利用者さんはゆったりと美味しそうに召し上がっている。職員も側でともに食しながら適切な介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、状態に応じて食事量・食事形態を変えている。摂取量が少ない時は、代替品の準備、好きな飲み物・ゼリーなどで水分量の確保に努めた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の習慣に合せ、ホールや居室の洗面台で口腔ケアをし行っている。ケアが不十分な方は、職員が仕上げ磨きを支援をしている。義歯の不具合や痛みがある場合は、歯科受診へ繋げた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、排泄状況を記入しパターンを把握、トイレでの排泄してもらえよう声掛けしている。状態に応じてパットやオムツ、失禁パンツを変更しトイレで排泄できるよう支援している。	排泄のプライバシーには、気をつけておりなるべくトイレでのそれに心がけており、夜間だけのポータブルトイレ使用については、朝には部屋から外へ片付けるなどの配慮がされている。トイレは清潔であり、臭いもない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し排便コントロールをしている。下剤だけに頼らず、食事・水分量を把握し、食品で排便を促すように努め、体操や歩行訓練など行っている。食後のタイミングでトイレに座れるよう声掛けをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を聞き、午前か午後を選択してもらえよう心掛けている。体調に合わせて、入浴を翌日に変更するなどしている。週3回を目安にし、シャワー浴の方でも足浴で温まれるようにしている。	入浴は体の保清だけではなく、リラックスできる楽しいケアと捉えており、利用者さんは楽しみにしている。全身の観察を行う良い機会にもしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの寝具を使用し、季節に合った物に入れ替えた。週1回必ずシーツ交換を行い、晴れた日は干したりしている。就寝時間は、希望や体調を考慮した。安眠できるよう、居室を適温に保ち、照明にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容は、常に更新しファイルに綴じ見られるようにしている。誤薬・飲み忘れ防止に与薬者はサインしている。状態に応じ看護師・医師と連携を図っている。利用者様に合う薬の形状、与薬方法・時間に配慮した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、包丁研ぎ、皿洗い、洗濯物など生活の中で、個々の得意な事を役割としてお願いしている。季節の行事を係が企画し実施した。利用者様の趣味である俳句を考えてもらい、広報紙に掲載し、ホールに飾った。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に応じた外出先へ出掛けたり、地域のイベントに参加している。春の遠足では、家族にも声を掛け、一緒に出掛け交流を図った。また自宅や家族様のお宅に行く機会を設けた。日頃から積極的に地元スーパーへの買い物、ドライブに出掛けている。	日中の職員配置に余裕があり、ホーム内にとどまることなく、近隣への散歩や理美容、買い物、ドライブや遠足と、日常的に出かけて活動的な暮らしに心がけている。運営推進会議の参加者から、近場での行事や興行の情報も得られ参考にしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、自室で保管されている。その他の利用者様は、家族の了解を得て金庫でお預かりし職員が管理している。買い物の際、お金を利用者様に渡し、自身で支払って頂く機会を設けた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、いつでも支援している。家族から連絡があった際、本人に受話器を渡し話してもらう事もある。以前から使用されている携帯電話の持ち込みは可能だが、使われなくなった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には、季節を感じる飾り付け、日々の様子の写真などを貼り、会話が広がるよう工夫している。定期的に掃除をして保清に努めている。ホールの空間を分け、落ち着いて過ごしてもらえるようにした。	木造りのホールや廊下は天井が吹抜けになっており、オレンジ系の暖かい雰囲気照明が大変潇洒である。外の景色も遠景まで見通せて気持ち良い。屋内ホールや玄関にも理念やケアの方針など、また、季節ごとにゆかりのある、装飾や花木が飾られ、利用者さんの目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを分け、親しい利用者同士が近くに座り交流でき、お茶・レクリエーションなどテーブルを合わせ一緒に過ごす時間もある。雑誌を読んだり、ラジオを聞いたり、個々のペースで居室で過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況・生活習慣に合わせ、ベッドか畳を選択でき、使い慣れた家具や寝具を持ち込んでもらっている。本人・家族と相談しながら居室の配置を整え、写真や飾りを貼り、こちよ空間づくりを心掛けている。	個室は明るく清潔で、カーテンも設えられていて、利用者さんは窓からの風景を楽しむことができる。プライベートルームとして個性的に装飾されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センサーマットだけに頼らず、個々の能力に応じコール、呼び鈴を使用した。移動が車椅子の方でも、椅子への移乗を心掛けている。安全面を考慮し2人介助を徹底している。		